人類顎骨ノ形態學的研究 (第一回報告 顎舌骨溝ノ形態ニ就テ) (二圖入)

九州帝國大學醫學部齒科口腔外科教室(主任 問田教授)

高山久三郎

Aus der Zahn- und Mundchirurgie-Klinik der Med. Fakultät der
Kaiserl. Univ. Fukuoka. (Direktor : Prof. Ryoji Toida)

Morphologische Untersuchungen menschlicher Kieferknochen.
(Erste Mitteilung: Ueber die Morphologie der Kiefer-Zungenbeinfurche.)

Von

Dr. Kyusaburo. Takayama.

Mit 2 Textabbildungen.

下顎骨ノ形態ハ種族發生學上、比較解剖學上、人類學上ノ見地ヨリ極メテ重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ、從ツテ此レニ關スル諸家ノ文献又枚舉スルニ遑アラズ、然ルニ其ノ細密ナル點ニ至リテハ未ダ其ノ研究充分ナリトハ稱シ難ク殊ニ本邦人ニ於テ其ノ憾ヲ深フス。偶々余ハ屍體下顎骨蒐集ノ好機ニ會セシヲ以テ之ガ形態學の研索ヲ企圖スルコト、セリ、幸ニ先人諸家ノ不足ヲ聊カニテモ補遺シ得バ光榮ナリ。茲ニ其ノ第一回報告トシテ顎舌骨溝ノ形態ニ就キ述ブ。

顎舌骨溝ハ之ヲ明カニ見ルモノト、不明ナルモノトアリ。幼若期ノモノハ一般ニ不明ナルモノ多ク、成人期ノモノハ一般ニ之ヲ認ムレドモ尙其ノ3%ハ之ヲ見ザルモノアリ。

余ハ顎舌骨溝ノ形態ヲ五型ニ分類セリ。

- 第一型 平面ニ稍々凹面ヲ有スルモノ
- 第二型 邊緣極メテ鈍ク巾徑ニ對シ深徑ノ小ナルモノ
- 第三型 邊緣明ナルモ溝ノ巾ハ表面最モ廣ク深部ニ行クニ從ヒテ狭クナレルモノ
- 第四型 邊緣銳ク、爲メニ溝ノ横斷面ガ彎狀ヲ示スモノ
- 第五型 溝ノ一部ニ管狀形ヲ有スルモノ

幼若期ハ第一型ヲ主要型トスルモ成人期ニ在リテハ第三型乃至第四型多ク、第五型ハ最モ其ノ發育ノヨキモノト思惟セラレド。本溝ノ長徑ハ増年のニ増加スルモ、下顎枝トノ關係ハ幼若期及ビ成年期ヲ通ジテ差違ヲ見ズ。巾徑ハ其ノ起始部ニ於テハ増年のニ減少スルモ深徑ハ長徑ト同様ニ増加ヲ示ス。

本溝ノ所在ハ起始部下顎孔ノ内側下縁ヨリ起リ終末部ハ幼若者ニ在テハ一般ニ第二乳臼齒根ノ下後方約七耗ノ附近成年者ニテハ第三大臼齒根ノ下後方附近ニ終ル。

又走行狀態ハ幼年期及ビ老年期ニ於テハ顎舌骨線ト平行ニ走ルモノ多ケレドモ、壯年期ハ前者ニ比シテ傾斜度高シ。又下顎骨基底トナス角度モ前者ハ小ニシテ後者ハ大ナリ。顎舌骨溝ハ左右側別ニハ特筆スベキ差異ナキモ、性別ニハ一般ニ男性ハ女性ヨリモ大キク、且ツ其ノ走行角度モ大ナリ。(第一表第二表參照)